

2019年5月29日

日本維新の会  
代表 松井一郎 様  
長谷川豊 様

一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所  
所長 石元清英

## 抗議と申し入れ

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、今年の7月に予定されている参議院選挙における日本維新の会の公認候補者である長谷川豊氏が本年2月24日に東京都内で行った講演の内容5月15日、インターネット上に公開されました。

その講演において、長谷川氏は「日本には江戸時代にあまりよくない歴史がありました。士農工商の下に、穢多・非人、人間以下の存在がいます。でも、人間以下と設定された人たちも性欲などがあります。当然、乱暴なども働きます。一族野盗郎党となって、十何人で、取り囲んで暴行しようとしたとき、侍は大切な妻と子どもを守るためにどうしたのか。侍はもう刀を抜くしかなかった。でも、刀を抜いたときにどうせ死ぬんです。相手はプロなんだから、犯罪の」と発言しています。

一読して、文意が通じにくい内容ですが、この発言から読み取ることができるのは、「江戸時代の賤民身分であった人たちには、性欲があるので乱暴を働く」「野盗（人から物を奪う盗賊）となって、多人数で侍一家を取り囲んで暴行する」「侍は妻や子どもを守るため、刀を抜いて戦うが、相手は犯罪のプロなので、殺されるしかない」ということです。「穢多・非人」は性暴力や強盗を行い、刀を振り回す侍に対しても、多人数で取り囲み、殺してしまう犯罪のプロであるという発言は、「被差別部落（以下、部落）には犯罪者が多い」「部落は怖いところだ」という偏見を広げ、部落・部落民に対する差別意識を助長することにつながります。

そもそも江戸時代に「穢多・非人」が侍とその家族を集団で襲い、殺害したという「事実」を裏付ける史料や研究など、まったく存在しないと考えます。長谷川氏は、このような大きなマイナスの影響をもたらす発言をしたわけですから、どのような史料や根拠にもとづいて上記の発言を行ったのか、そして、どのような意図で発言したのか、説明する責任があります。

当初、長谷川氏はこの発言への批判を真摯に受け止め反省するどころか、開き直るかのような対応をとったとのこと。5月22日には自身のウェブサイトで「この発言を全面的に謝罪するとともに、完全撤回」と書いていますが、内容の伴わない、その場しのぎのものです。

当研究所は、今回の長谷川氏の発言に対して強く抗議するとともに、日本維新の会に対しては、公党としての賢明な対応を求めます。

敬具